

令和8年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【田島中学校】

学力向上
アクションマップ

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する 資質・能力	(1)基本的な知識と技能を習得するために学習習慣を定着させる資質・能力 (2)課題解決のために、主体的・対話的な活動を行うことで自分の考えを深める資質・能力
↓	
実施する学力向上策 【時期・頻度】	(1)基本的な知識や技能(国・漢字、数・計算、GS:英単語)を学ぶ時間として、朝学習の時間を週に2回設ける。朝学習では基本的な内容を扱う教材を用意する。 (2)各単元において主体的に取り組む活動を取り入れるとともに、話し合い活動や協働的な学び、さらには個々で振り返る時間を設ける。(各単元ごとに1回)

⑤	年度末評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)
		↓
今年度の成果と 次年度の課題		④学校全体での取組 ⑤単元テスト・定期テスト 等の分析・活用 ⑥中間評価を経ての取組 ⑦調査結果を活用した授業

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	安心感のある学級風土や高い自己肯定感が見られる。特に端末活用への得意意識と高いICT習熟度は本校の強みとなっている。一方で、複数の情報を整理・統合し、根拠を明確にして記述・説明する活用力に課題が見られ、学びの深まりに向けた取り組みを進めていきたい。
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	自己肯定感が高く学習やICT活用に向向きで、穏やかな学級環境で安心して学ぶことができている。一方、自分の考えを根拠とともに言語化・記述することには苦手意識があり、発展的な思考・表現力の習得が課題である。

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
↓	
結果から考えられる 児童生徒の実態	①学校全体での取組 ②単元テスト・定期テスト 等の分析・活用 ③中間評価を経ての取組 ④調査結果を活用した授業

③	中間評価	
学力向上策の 実施状況	評価(※)	学力向上策(1)・(2)ともに実施することができている。(1)については、朝学習を継続的に実施することによって、生徒の基礎的な学力の向上が少しずつみられている。(2)については、ICT等を活用し、個⇄協⇄個の活動を意識した授業が行われることにより、生徒の主体性の一定の向上がみられている。
	B	
↓		
学力向上策の 見直し	(変更なし)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

教育研究所